ムラミダーゼ （略）	ペプチドグリカン分解酵素 （略）

２・３　（略）
ウ　（略）
２～６　（略）
別表第２（第２条関係）
１～５　（略）
６　飼料添加物一般の試験法
（略）
⑴～⑬　（略）
⑭　酵素力試験法
①～⑩　（略）
⑪　ペプチドグリカン分解力試験法
ペプチドグリカン分解力試験法は、蛍光標識ペプチドグリカンにムラミダーゼが作用するときに、加水分解に伴って増加する蛍光強度により、飼料添加物中のムラミダーゼの量を測定する方法であり、その単位は、ペプチドグリカン分解力単位で示す。
１ペプチドグリカン分解力単位は、ムラミダーゼがフルオレセイン標識ペプチドグリカンにpH6.0、30℃で作用するとき、１分間に0.06nmolのフルオレセインイソチオシアナート（アイソマーⅠ）に相当する蛍光強度を増加させる酵素量に相当する。
希釈液
リン酸一水素ナトリウム・二水和物22.5ｇ（22.45～22.54ｇ）及びクエン酸7.74ｇ（7.735～7.744ｇ）を量り、１Ｌの全量フラスコに入れ、800mLの水を加え、溶解するまで攪拌した後、オクチルフェノールエトキシレート試液１mLを加え、0.05mol／L水酸化ナトリウム試液又は0.1mol／L塩酸試液を用いてpHを5.9～6.1に調整する。さらに水を標線まで加える。
基質溶液の調製
0.5mg／mLフルオレセイン標識ペプチドグリカン試液100μLに1,900μLの希釈液を加え混合する。用時調製する。
操作法
試験を行うために必要な量の試料を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が0.01～0.03ペプチドグリカン分解力単位となるように希釈液を加え、45～90分間かき混ぜて得られた液を試料溶液とする。
標準液Ａ～Ｇ及び試料溶液を50μLずつマイクロプレート（黒色）に分注し、使用しない隣接ウェルには希釈液を100μL分注する。標準液Ａ～Ｇ及び試料溶液の入ったウェルに基質溶液を速やかに50μLずつ分注し、直ちに励起波長485nm、蛍光波長528nm及び温度30℃に設定した蛍光マイクロプレートリーダーを用いて、測定間隔１分で30分間測定する。

$$１ｇ中のペプチドグリカン分解力単位＝\frac{F\times V\times Z}{W}$$

Ｆ：検量線から求めたペプチドグリカン分解力単位
Ｖ：調製した試料溶液量
Ｚ：試料溶液の希釈倍率
Ｗ：試料採取量(g)

（新設） （略）	（新設） （略）

２・３　（略）
ウ　（略）
２～６　（略）
別表第２（第２条関係）
１～５　（略）
６　飼料添加物一般の試験法
（略）
⑴～⑬　（略）
⑭　酵素力試験法
①～⑩　（略）
（新設）